

平成 20 年 1 月 30 日

各 位

会 社 名 三菱マテリアル株式会社
代 表 者 名 取締役社長 井手 明彦
(コード番号 5711 東・大証第1部)
問 合 せ 先 広報・IR室副室長 鈴木 徹
(TEL 03-5252-5206)

米国セメント事業強化のための
ロバートソン・レディ・ミックス社 70% 持分取得について

当社連結子会社である米国三菱セメント開発（出資割合 当社 70%、三菱商事株式会社 30%。以下「米国セ開発社」）は、米国セ開発社が 33.3%の持分を有する米国カリフォルニア州での生コンクリート・骨材リーディングカンパニーである「ロバートソン・レディ・ミックス社」（米国カリフォルニア州、以下「RRM」）につき、36.7%の持分を追加取得し、米国セ開発社の持分を 70%まで拡大させることを本日決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 持分取得の概要

- (1) 取得対象：RRM の相手方パートナーであるトローシュ・ファミリー側持分
- (2) 取得割合：36.7%取得（米国セ開発社の持分は、現行の 33.3%から 70%に増加）
- (3) 取得時期：米国独占禁止法上の審査等の法的手続きを経て、2008 年中に完了予定
- (4) 取得金額：約 9 億ドル

2. 取得の理由

- (1) 当社セメント事業部門では、「地域ポートフォリオ運営により環太平洋地域のメジャープレイヤーとなる」ことを志向し、日本では収益改善と製造コスト削減による収益基盤の強化、米国ではセメント製造・輸入販売から生コンクリート・骨材事業まで手掛ける強みを発揮し、特に川下分野を拡大することを基本戦略としてまいりました。

1990 年代後半以降は米国のセメント需要拡大と相まって、当社米国セメント・生コンクリート事業は 2006 年にセメントセグメント経常利益の過半を占めるにいたりました。とりわけ生コンクリート事業での伸びは著しく、米国事業成長の大きな原動力となっております。今回、米国セメント事業基盤の更なる強化を目的に、上記の通り RRM 持分を追加取得することといたしました。

- (2) 米国でのセメント需要拡大の原動力は移民等による人口増加に伴うインフラ整備ですが、米国セメント協会資料によりますと、2030 年には対 2005 年比で 23%の人口増加が見込まれております。とりわけ、当社が事業展開をしている地域では全米を上回る人口増加が予想されており、ネバダ州、アリゾナ州での 80%強の成長をはじめ、カリフォルニア州でも約 30%の増加が予想されております。

昨今米国ではサブプライム・ローン問題の影響で住宅市場は低迷傾向にありますが、住宅部門が米国でのセメント需要に占める割合は約 25%であり、需要の過半を占める公共投資については、長期計画に基づく道路、空港など交通網の整備が進められていることも背景に、今後も安定的に伸びる見通しにあります。このように、米国では、今後も人口増加を原動力として、長期的にセメント需要は拡大トレンドにあると予想されております。

- (3) 著しい成長をとげた米国生コンクリート事業の中でも、その成長の原動力となってきた RRM は過去 3 年間で経常利益が 4 倍強の成長を遂げるに至りました。今後も成長トレンドにある米国での事業環境を考えれば、RRM を当社グループ事業に取り込むことによって、南カリフォルニア地域の生コンクリート・骨材事業基盤をより強固なものとすることが、今後の当社米国セメントおよび生コンクリート事業の更なる強化・拡大の実現、ひいては当社グループのセメント事業を成長路線に乗せるために必要不可欠であると判断いたしました。

3. 米国三菱セメント開発社の概要

① 社名	MCC Development Corporation
② 代表者	キムボール・マクラウド（社長）
③ 所在地	米国ネバダ州ヘンダーソン市

4. ロバートソン・レディ・ミックス社概要

① 社名	Robertson's Ready Mix, Ltd.
② 代表者	デニス・トロッシュ（社長）
③ 所在地	米国カリフォルニア州コロナ市
④ 設立年月日	1992 年 1 月 1 日
⑤ 主な事業の内容	生コンクリート・骨材の製造・販売
⑥ 決算期	12 月
⑦ 純資産	約 2 億ドル（2007 年 12 月期予想値）
⑧ 総資産	約 4 億ドル（2007 年 12 月期予想値）
⑨ 売上高	約 8 億ドル（2007 年 12 月期予想値）
⑩ EBITDA（利払前・税引前・償却前利益）	約 3 億ドル（2007 年 12 月期予想値）
⑪ 従業員数	約 1,800 名
⑫ 主な事業地域	米国カリフォルニア州ロサンゼルス周辺各郡

5. 今後の見通し

- (1) 現在 RRM は当社連結決算上、持分法を適用しておりますが、今般の持分取得に伴う今後の会計処理につきましては現地監査法人にて検討中でありますので、現時点では詳細は確定しておりません。なお、RRM の 2006 年度業績を前提とすると、米国セメント開発社連結経常利益は 50 億円程度の増加が見込まれます。RRM の高い収益力、南カリフォルニア地域の将来性を背景に磐石な川下分野を持ったことで今後米国セメント事業は更なる発展を遂げることになります。一方、財務面については、当面の当社連結デットエイクイティレシオは足許実績レベルを上回らないこととし、今般の持分取得による影響を限定的な範囲内に止めることといたします。
- (2) 当社は、現中期経営計画「Break-through（ブレイクスルー）1000 ～1000 億円企業を目指して～」において 4 コア事業を中心とした「四輪駆動経営」を標榜しており、また、当社セメント事業部門では、「地域ポートフォリオ運営により環太平洋地域のメジャープレイヤーとなる」ことを志向しておりますが、今般の投資はセメント事業における成長ドライバーの強化と位置付けております。米国事業の強化は、米国でのセメント輸入ターミナル事業を通じて、中国でのセメント事業についての需要拡大にもつながり、当社グループ事業全体の成長に寄与することとなります。そして、三菱マテリアル全体としましても、複合企業体である強みを活かしながらも成長機会を逃がすことなく絶えず変革を志向することを事業戦略の基本とし、四輪駆動経営を更なる高みに持ってまいりたいと考えております。

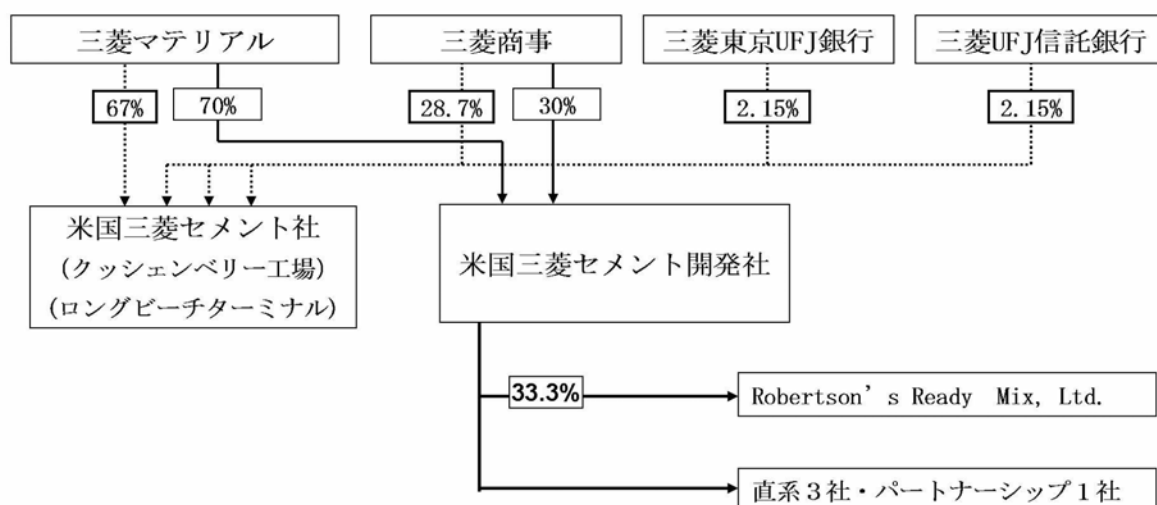
＜将来に関する記述等についての注意事項＞

本資料における業績見通し等に関する記載は、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績等は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料記載内容と大きく異なる可能性があります。

以 上

(ご参考)

1. 出資図（現行出資図）



2. 地図

